



彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク
あったかウェルねっとニュース 第43号

2025年1月15日発行

ホームページ <http://attaka2018.starfree.jp/>



あったかウェルねっとの「ウェル(WELL)」は、Welfare(福祉)、Well-Being(幸福)のWell(大切にという意味)で、「温かな心で一人ひとりを大切に思うつながり」でありたい、との願いが込められています。

2025年あけましておめでとうございます

2025年は団塊の世代が後期高齢者となる年。医療・介護、福祉分野などに大きな影響があり、ひとり一人が「福祉」を考えることがますます大切になります。

「ふだんの・くらしの・しあわせ」をみんなで作っていきましょう。

今年もよろしく
 お願いします!



新代表あいさつ
「ねっと会報43号に寄せて」

代表 吉田より子&盲導犬カレン

昨年は、年明け早々の大地震、そして、9月の豪雨に見舞われた能登半島の皆様と全国の皆様の無事を願いながら、新しい年を迎えました。そして、5月の総会で横田前代表から代表のお役目を引き継ぎました。

さて、私があったかウェルねっとのお仲間に入れていただいて約20年になろうかと思っています。あったかウェルねっとは、障害のある人もない人もごちゃまぜで学びあい活動するボランティア団体です。

中途失明の私には「ボランティアをする」という考えは全くありませんでした。仕事を辞めて1年が過ぎたころ、地元の社会福祉協議会の職員さんの紹介もあり、福祉教育養成研修を受講しました。そこで「あったかウエ

ルねっと」の活動を知り、お仲間に使っていただきました。誘っていただかなければ、今の私はなかったと思います。

おかげさまで、今は視覚障害ということも意識せずに、皆さんとともに活動をさせていただき、元気な日々を過ごしております。

「福祉・ふくし」は「ふだんのくらしの幸せを考える」を合言葉に活動を続けてきました。あったかウェルねっとの団体名の通り、本当に暖かいお仲間の集まりです。コロナ以降は、オンラインでの活動になってますが、変わることなく、和気あいあい活動しております。

入会した当時は、埼玉県内のいろいろな地域からのご依頼があり、前代表の横田さんはじめ、皆さんとともにご依頼にこたえるべく出向きました。ある中学では、体育館で大規模体験を、総勢100名で実践したことも思い出の一つです。

これからの活動には若い方々の原動力が必須です。共に「福祉・ふくしの心」を育み、つないでいきましょう。

推進員養成研修(全2回)のお知らせ

「令和6年度あったかウェルねっと福祉教育・ボランティア学習推進員養成研修」(全2回)をおこないます。

参加費：1回につき1,000円(学生は無料)

定員：30名(2回とも受講できる方) 先着順

……【第1回】……

日時：1月21日（火）10時～15時
 会場：すこやかプラザ2階 研修室1・2・3
 (1) 講義「地域共生社会の実現に向けた福祉教育の推進～ともに生きる力を育むために～」
 講師：熊井英朗氏（埼玉県社会福祉協議会 地域福祉部部長）
 (2) 演習：実践者による事例発表「東松山市の小・中学校での『ふくし』の学びについて」
 講師：中島満氏、紫村元尚氏
 (3) グループワーク～実践者に学ぶ～

……【第2回】……

日時：2月25日（火）10時～15時
 会場：すこやかプラザ3階 多目的実習室
 講師：坂本晃一氏（墨田区立菊川小学校、
 全社協福祉教育推進委員会委員）
 『学校における福祉教育お役立ち講座』
 【午前の部】 講義とグループ演習①
 「楽しくお互いを知るために～多様な疑似体験・コミュニケーションゲームを通して～」
 【午後の部】 講義とグループ演習②
 「小学校のプログラムを協力して作成しよう～推進員に必要な”評価と改善の力”を活かして～」
 申込み：あったかウェルねっと事務局（須田）
 E-mail attakawelnet@gmail.com

日程が迫っていますが、事前にメールリスト及び郵送にて会員の皆様にお知らせいたしました。
 開催の詳細はHPをご覧ください。



ねっとHP

報告 2024年度ねっと総会

2024年5月18日（土）、すこやかプラザ2階セミナーホールにて総会をおこないました。

原田正樹氏（日本福祉大学 学長）、熊井英朗氏（埼玉県社協地域福祉部 部長）を来賓に迎え、ZOOMも併用しての総会は、提案された全ての議事が承認され、新代表には吉田より子氏が選任されました。

【主な役員・運営担当】

（敬称略）

代表：吉田より子（新）



副代表：木野ゆずき、木村房枝（新）
 相談役：坪井敏衛、坂本晃一、横田八枝子（新）
 事務局長：須田正子
 会 計：和田 弘（新）、吉村育代
 会計監査：中島 満（新）、山田あつ子（新）
 他に事務局・情報・渉外・企画・メールスタッフ等。
 今年度もよろしく願いいたします。

前代表退任あいさつ

「これまでの実践を振り返って」
 ～たくさんの出会いと学びに感謝の25年～

前代表 横田八枝子

—2000年から日本の大改革が始まる—

「国政から地方自治へ」「超少子高齢社会の到来」「措置から契約へ」「自己選択・自己決定の時代へ」「公的介護保険制度導入へ」等々。その中で私自身は、地元の子ども・障害者・高齢者へのボランティア活動15目年の頃で、埼玉県社協が主催する「第一回福祉教育・ボランティア学習推進員養成研修」の7日間の講座を修了し、第一期推進員に認定されました。様々な市町村から受講の社協職員/教員/ボランティア/福祉サービス利用者たちと協力し合った「まち探検やワークショップ」での学びは、目から鱗の体験でした。

一人ひとり違う環境の中で生きていることを理解し合い、「ともに豊かに生きる力を育む福祉教育の推進」は、「自分の生きる力」と、「社会の支え合い」が必要で重要との強い想いが、ねっと発足の準備につながりました。

—2001年から県域で連携して—

あったかウェルねっとは、一人一人を大切に思うつながりで、「福祉教育・ボランティア学習の推進」への研鑽と実践を重ね、柔軟に「共に生きる力」を育みあってきました。

原田正樹先生や県社協はじめ、関係する先生方からの、温かい助言支援を享受でき有り

難かったです。継続の秘訣は、立場が違う会員たちが県域での『情報交換』から、地域での実践方法・地域課題の共有や地域人材のトレードなど、地域情報を「みんなの力」に結集させて、学校で、地域で、福祉教育実践を積み重ねてきました。

「誰もが誰かの力になれる地域づくり」は、豊かな福祉観で、福祉の種まきの一步から。

ー2016年からゆるやかに活動ー

ねっと15周年のテーマ『わかもの』から「若者への福祉教育研究会」を発足し、サービスラーニングプログラムの研究と実践をとおして、若者たちが社会の一員として、自分らしく歩んでいけるよう、これからも若者たちの活動を応援していく所存です。

ー先生方と関係する皆様にお礼ー

長きに亘り、ねっと活動を見守り、ご助言ご支援を賜った、原田正樹先生、河村美穂先生（故人）、アドバイザーの先生方、県社協の皆様、本当に本当にお世話になりました。これまでのご厚情に心よりお礼申し上げます。

また勝手ながら、これからのつきましてもご支援の程よろしくお願い申し上げます。

これまでご指導いただいた先生方や活動の中心となった役員の方々は枚挙にいとまがありません。なかでも故河村美穂先生には大変お世話になりました。ご冥福をお祈りいたします。

報告 2024年度ねっと研修会

2024年度総会の後、午後には県社協プラットフォームと合同で、2024年度ねっと研修会をおこないました。（参加55名）

2024年度研修会(5/18)

「誰もが幸せに暮らせる地域共生社会に向けて」
埼玉県社協プラットフォームと合同開催

2024年（令和6年）5月18日（日）、研修会「誰もが幸せに暮らせる地域共生社会に向けて」をおこないました。若者への福祉教育研究会、第14回地域福祉推進プラットフォーム（埼玉県社協）との合同で、彩の国すこやかプラザ2階セミナーホールにて開催しました。

熊井 英朗氏（埼玉県社会福祉協議会 地域福祉部 部長）、横田八枝子氏（あったかウェルねっと）のあいさつの後、基調講演、事例発表、対談があり、後半は「ふくしでつなぐトークリレー」へと続き、20年間の福祉教育のあゆみを振り返りながら、「新たな福祉課題」について学び合いました。

[基調講演]

講師：原田正樹氏（日本福祉大学 学長）

「地域共生社会～世代や分野を超えてつながるには～」

「地域共生社会の理念」「役割があること・役割を持つことの大切さ」「相互実現という着想」「ケアリングコミュニティと自立、多様性（ダイバシティ）・社会的包摂（ソーシャルインクルージョン）・公正性（エクイティ）」等々、今だからこそ理解し考えておきたい大切な視点を学びました。

また、似ているけれど異なる2つの言葉、平等（イコアリティ）と公正性（エクイティ）など、示唆に富む講演でした。

[事例発表]

発表者：木野ゆずき氏（視覚障がい者と仲間
の集まり「いどばた」、声なびシネ
マわかば 両代表）

「視覚障がい当事者らがつながり自立と社会参加を目指す『いどばた』の活動」

2001年の福祉教育研修で双方向の関係性が大事と学んだ後に、「やってもらう・出来ない」と嘆くだけでなく何か自分たちで始めようと、

視覚障害者と仲間の会「いどばた」を立ち上げたのは2005年。数人で始まった「いどばた」は視覚障害のある人もない人も同じ立場で関わり合い、輪を広げました。

また、視覚障害者たちの一緒に映画を観たいという願いから「声なびシネマわかば」も立ち上げ、今に至るそうです。受容しあい認めつて、自己肯定感も取り戻した活動の数々を伺いました。

[対談] 原田正樹氏・木野ゆずき氏

『いどばた』20年の歩みに学ぶ地域福祉の今とこれから」

対談は和やかに進み、必要は最大の武器・いろいろな方法と工夫で解決する・情報を知ること・仲間が背中を押す…等々、大切な言葉が引き出され、その活動が福祉教育や地域福祉に重なることを学びました。

あったかウェルねっとは、社会福祉基礎構造改革が進められた時期でもある2001年に設立されましたが、現在までの軌跡にも重なりました。活動をふりかえりつつ、新たな視点に気づかされた対談でした。

[トークリレー]

「お互いのことを知るために～知り・学び・考え合い未来につなごう～」

コーディネーター：深田耕一郎氏
(女子栄養大学 准教授)

発表

- ① 「暮らしの多様性～その人らしく幸せに生活するには～」

さいきときえ
齋喜逸江氏(一般社団法人 U-a-Kokua
代表・LGBTQ 当事者)

- ② 「知ってください！医療的ケア児のこと」
藤川友子氏(特定非営利活動法人
mamacare 代表・医療的ケア児と家族)

- ③ 「学生から見るふだんのくらしのしあわせ」

平野千恵氏(おおぞら高校コーチ(教員))

山本弥生氏(おおぞら高校卒業生)

成川亜美氏(おおぞら高校卒業生)

佐々木結加氏(おおぞら高校3年生)

始めに深田耕一郎氏より「ふくしでつなぐトークリレー」のレクチャーがあり、その後、誰もが普通に幸せに暮らせる社会に向けて、3組の方々の発表へと移りました。

- ① 齋喜逸江氏はLGBTQ当事者として、性的少数者(セクシャルマイノリティ)を取り巻く問題を発信しており、LGBTQへの理解を深める活動をしながら、高齢者の日常生活サポート事業を立ち上げた経緯を語られました。

その人が望む生活を支えていくには、身近な地域・住民のつながり・相互に役割、そして支え手と受け手という関係を越えて支えあう関係性が大事。多様な暮らし方があり、人によって幸せの感じ方は違うということ念頭に置く等。そして、終わりに「あなたが思う『ふつう』ってなんですか？」と問いかけました。

- ② 藤川友子氏は、まずは医ケア児(医療的ケア児)」を知って欲しいと訴えました。

呼吸する、食べる・飲む、出すことに医療的なケアを必要とする子供たちとの日々の暮らしについて教えていただきました。医ケア児の成長過程で次々おこる課題も抱えながら、「よく見て、なんでも聞いて、遠慮なく触って、そして知って」と、医ケア児のいる「我が家の暮らし」を語りました。

また、医ケア児が成長して「医ケア者」になると利用できる制度も少なくなり、忘れられがちになるということも知っておきたいことの一つ。そして藤川氏らは「訪問看護ステーションMamacare」を立ち上げま

した。

- ③ 教員をコーチと称するおおぞら高校の平野コーチより「お互いのことを知るために～知り・学び・考え合い未来につなごう～」の発表で全容を俯瞰した後、3人の若者による「学生から見るふだんのくらしのしあわせ」の発表へ続きました。

日本リハビリテーション専門学校生の山本弥生氏は「受援力と支援力」、大原ビジネス公務員専門学校生の成川亜美氏は「人との出会いで見つけたもの」、現3年生の佐々木結加氏は「知り合う機会の創出」と題して思いの溢れる発表をいただきました。

生きづらさを抱きながらも、高校生活で、たよる・寄り添う・受け入れる・知り合う等を経験し、大切な出会いを経て今があることや、未来に向かっていくことを感情豊かに伝えてくださいました。

[グループワーク・全体共有]

多様な立場の方々の発表を聞いた後、参加者それぞれが「私の暮らしの中の気づき」を挙げながら、情報交換をしました。

終わりに、深田先生から地域共生社会のイメージとして、詩集『風が吹くと』（吉野弘）より「生命は」の紹介があり、原田先生からは「知って欲しい」「『自分と違う』を創造して欲しい」「繋がってしよう」のイメージをもらったとの言葉をいただきました。

〈参加者の感想より〉

- ◇和気あいあいとした雰囲気、楽しく学ぶことができました。
- ◇支援する側だけが力や知識をつけるだけでなく、当事者も互いに力をつけて学んでいかないといけないというお言葉に共感しました。
- ◇福祉の経験がとても多い先人の皆さんのお話が聞けてとても力になったように思いました。また、当事者のお声を聴くこともできて、私が今できることはなにかについて改めて深く考

える機会になりました。

- ◇学生時代に生きづらさを感じて苦しんでいた若者が一生懸命に自分の人生を切り開こうとしている姿に感動しました。
- ◇日頃なかなか関わるご縁のない方々の活動や思いは、どの発表者の方のお話しも、心に伝わるものがあつたし、知らない事を少しだけけれど、またひとつ知ることができたかなと感じました。
- ◇一人ひとり違う人間であるが、皆で共生社会をつくっていこうという思いが伺い知れた。
- ◇地域のあらゆる住民が役割を持つ！！と言う地域共生社会がこれからの時代、もっと大切になっていくと感じました。
- ◇久しぶりの対面でのイベントで多くの人達と顔を見、空気を感じての中で行えて良かったと思う。多くの方々と繋がることができ感謝です。

受賞の報告 文部科学大臣表彰

令和6年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰を受けました。

障害者の生涯を通じた多様な学習を支援・実践する活動及びその活動を行う個人又は団体について、活動内容が他の模範と認められるものに対し、その功績をたたえ文部科学大臣表彰をおこなっているもので、48の個人と団体が受賞しました。

12月10日（火曜日）に文部科学省東館第一講堂でおこなわれた表彰式で、あつたかウェルねっと吉田新代表に賞状が授与されました。



歴代の代表、役員、会員により24年の長きにわたり継続された福祉教育・ボランティア学習推進の活動が評価されたものです。

今後も、障害があってもなくても誰もが社会参加でき、活躍の場を広げて、「共に生きる」ノーマライゼーション社会の醸成に向け、「ふだんのくらしのしあわせ」の実践を広げていきましょう。

令和6年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰 被表彰者一覧（あったかウェルねっとは12番目）



被表彰者一覧 PDF

報告 まなびばしゃべりばカフェ

まなびばしゃべりば夏カフェ(6/30)

人は皆たくさんの立場を持っている

～精神障がい者と絵本作家の立場で思うこと～

話題提供者：しぶやこーすけ氏

絵本作家（鶴ヶ島市在住）

6月30日（日）、鶴ヶ島市社協と共催の夏カフェを ZOOM によるオンラインでおこないました。

精神障がい者と絵本作家という二つの立場を持つしぶやさんに、日ごろから思っていることや伝えたいことを語っていただきました。

障害者雇用で働くときと、絵本作家になってからの周りの対応の違いを感じるというしぶやさん。

勝ちたいではなく負けないというマインドで、相手を尊重しながら一人一人が考え続けていくことや、絵本もうまく書こうとするのではなく、素直に描くと拙さも味になる、など、思いを語っていただきました。

就労支援センターから支援の現状についても一言いただきました。（19名参加）

YouTube に動画をアップしています。



夏カフェ2024動画

まなびばしゃべりば冬カフェ(12/25)

2024 年をふりかえるおしゃべり会

～令和6年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰式報告会を兼ねて～

話題提供者：ねっと代表 吉田より子氏

ねっと事務局長 須田正子氏

12月25日（水）、オンラインにて冬カフェおこないました。

吉田代表と盲導犬カレン、須田事務局長が出席した表彰式の様子が報告されました。

厳かな受賞会場の様子や3団体による活動発表の内容、そして行き帰りの顛末も含めて和やかに語られました。

参加者同士のおしゃべりも楽しく、お互いの状況を知りあう情報交換も活発で、笑顔を交わすうちに終わりの時間となりました。

（12名参加）



報告 いろいろ

「彩の国いろどりライブラリー」

埼玉県で運用開始

埼玉県のホームページに「彩の国いろどりライブラリー」が開設され、運用が開始されました。あったかウェルねっと会員数名も登録講師として紹介されています。関心のある方、必要とする方はご活用ください。

（埼玉県 福祉部 障害者福祉推進課担当）

〈埼玉県HPより引用〉

「共生社会」の実現に向け、県の附属機関

である埼玉県障害者施策推進協議会の提言に基づく取組として、県内で福祉教育及び社会教育の取組を行う機関・団体の協力を得ながら、障害当事者が講師として地域の様々な場所で講座等を行う取組を始めることとしました。

「彩の国いろどりライブラリー」

ホームページ



若者への福祉教育研究会コーナー

《おおぞら高校川越キャンパス&若者への福祉教育研究会の共催事業》

能登半島災害復興支援プロジェクト ～川越から能登半島災害支援！～

昨年の夏季休暇中に能登半島へ災害支援に行った1人の男子高校生（おおぞら高校川越キャンパス在校生）の「川越からできる支援」

「支援の灯を絶やさない」の熱い思いを「若者への福祉研究会」のスタッフが思いを受け止め、学校内で仲間を集め、支援の企画を一緒に考えました。

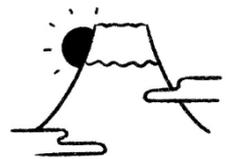
何が出来るかを考えたところ、能登の物産品を販売し、売り上げの全額を全部寄付することになりました。川越市内企業を訪問し、まずは資金集め、熱い思いを伝えたことで、企業の皆様が賛同してくれたことに学生たちも大変驚いていました。

その資金を基にスタッフが買い付けを行い、川越市社会福祉大会、高校での学院祭などで能登の物産を販



売、また募金箱も設置し、各イベント当日は多くの方から支援をいただきました。販売売上と募金額併せて「248,295円」の義援金全額を埼玉県共募を通じ石川県共同募金会へ送金しています。

参加した学生からは「今後も支援を続けていきたい」、「来場した皆さんに能登の事を伝えることができたことがとても良かった」などの感想をもらいました。若福研究会は今後も学生たちの様々な活動に支援をしていきます！



県社協からの情報

第17回地域福祉推進プラットフォーム

「社会福祉法人と社協の連携について考える」をテーマに開催します。

池田 徳幸氏（社会福祉法人名栗園 理事長）より「社会福祉法人が社会貢献活動を行う意義について」をテーマに基調説明いただいた後、深谷市、川口市内の実践発表を行います。その後、グループワークを通して現状や課題について、情報交換を行います。

関心のある方はぜひご参加ください！

日時：2月19日（水）13:30～16:00

実施方法：オンライン（ZOOM）

参加対象者：地域福祉の推進に関心のある方などなたでも

申込フォーム（1月31日（金）締切）：

<https://ws.formzu.net/fgen/S88564209/>



今年度の地域福祉推進プラットフォーム実施報告

今年度も標記事業にご協力・ご参加いただきありがとうございました。

【第14回「誰もが幸せに暮らせる地域共生社会に向けて」(5月18日)】

※報告 2024年度ねっと研修会(3~5ページ)
参照

【第15回「ゼロから知ろう!発達障がいについて」(8月21日)】

西地 由美子氏(吉川ドーナツの会 代表)より「発達障がいについて~『分からない』と不安だけど『分かる』と安心」、山崎 雅美氏(ビリーブ、SKYせる メンバー)より「周り(家族以外)に理解してもらえたおかげで嬉しかったこと」をテーマに事例発表いただきました。

【第16回「若年性認知症への理解を深める~自分そして身近な人のために~」(11月15日)】

内城 一人氏(デイサービスセンターけやきの家 施設長)より「若年性認知症の方の思いを知る~その時の思いを大切に~」をテーマに講話、内城 一人氏と猪鼻 伸代氏(若年性認知症当事者家族)より「若年性認知症の方の家族の思いを知る~病気を隠さず笑顔で生活~」をテーマにトークセッションいただきました。

**事務局情報**情報提供のお願い

皆様の地域の福祉教育情報をお寄せください。日頃の活動や地域の状況、感じたこと、福祉課題などの他、身近な情報もお寄せください。会報、メーリングリストその他で共有

させていただきます。

皆さまからの情報をお待ちしています。

会費振込先のお知らせ

ねっと活動は会員の会費で運営しています。(年1000円、賛助会員一口500円)

原則として口座振り込みとなりました。振込手数料についてはご負担をお願いしております。どうぞご理解のほどお願いします。

振込先：埼玉りそな銀行武蔵浦和支店

普通預金口座番号：5015782

名義：彩の国福祉教育ボランティア学習推進ネットワーク

メーリングリストの登録

会員及び賛助会員の方にはメーリングリスト(ML)で情報をお届けしています。メールアドレスが代わる場合は事務局まで、新しいアドレスをお知らせください。

また、現在郵送でお届けしている方へのお願いです。郵便料金値上げにより、郵送に代わる方法としてメーリングリスト登録をお願いできれば、と願っています。ご検討をお願いします。メールアドレスをお持ちの方はお知らせください。

ねっと事務局 須田 049-283-1865(FAX)

事務局アドレス attakawelnet@gmail.com

 編集後記

ようやく43号をお届けすることができました。8ページにもなり情報満載!HP、メーリングリスト、フェイスブック等でも発信しています。皆様の声をお待ちしています。

発行：彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員
ネットワーク(通称：あったかウエルねっと)

編集：あったかウエルねっと(情報担当)

連絡先：埼玉県社会福祉協議会地域活動支援課

TEL：048-822-1435 FAX：048-822-3078

Mail：vc@fukushi-saitama.or.jp